

おお大勝利

平成 26 年度山東サッカー部報第 7 号 (5 月 21 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

雨中クレーのY2B酒南戦 勝利を手にする

5 月 17 日 (土) 鶴岡南 G にて Y2B 第 3 節酒田南戦が行われました。朝に山形市を大型バスで出発した頃は曇りでしたが、月山のふもとの段階で雨、月山を越えると強い雨。県立高校鶴岡南 G はもちろんクレーのため、久しぶりに雨中クレーの試合かややテンションが下がるものの、「いやいや、それもサッカー」と言い聞かせる。山形では、県総体でも開催地区によっては、山によっては、一回戦は(二回戦も?)クレーという場合もあり、もちろんその場合、雨中クレーの可能性はある¹。実力もないのに良い環境を求め、選り好みしていると、雨中クレーの経験のないチームになってしまう。そのように**自分たちに弱味(将来の言い訳)を作ってしまうのはダメ。どんな環境でもたくましく戦えるチームを目指さなければならない**。とまあ、このように、自分に言い聞かせる。しかし、到着してみると、グラウンドの質の問題でしょう、所々水たまりはあるものの、引き締まったピッチでボールは普通に転がる。

対戦相手の酒田南は難なく庄内地区予選(飽海地区予選?)を勝ち抜いたようで、県リーグ 2 部の実力を示した。ただ、ここまで Y2B では苦しい戦いを強いられている。さあ、今日の試合はどうなるか。また、**最近の酒田南は、「ボトムアップ理論」という選手が主体となり練習・戦術・選手起用!のすべてを決める手法を採用**している。以前広島観音高校を率い IH を制した方が実践し、現在も他の高校で実践し提唱している選手育成法²。現在の山東は、練習は選手が自主的に運営している³ものの、試合に際しては監督がしゃしゃり出ている。渡邊前監督が山東で現役生の頃、または、それ以前は、選手起用にても選手の自主性の余地があったのかもしれませんが、私の頃は、佐竹監督(現校長)が采配を振るっておられました。そういう手法の違いの点でも、興味深い一戦となる。さあ、ボトムアップ酒南に対して、**アップダウン山東**(not トップダウン⁴)がどう立ち向かうか。

¹ 今年の村山地区開催の県総体は、明正高校さんの存在もあり、すべての試合が人工芝か天然芝です。

² まずは身の回りの整理整頓から始まるようです。**興味をもたれた方は、酒南サッカー部のブログをご覧ください**。きれいに並べられたバッグ・シューズの写真が UP されています。念のため付け加えますが、酒南にもサッカーの指導の専門家はおります。**指導の専門家がいるけどその方が黒子役に徹する**ところに、この手法の興味深いところがあります。

³ 練習の指揮だけでなく練習メニューの決定も選手がしております。主将、副主将とは別に設けられるグラウンド・マネージャーという役職の選手が、サッカーの指導・練習方法を勉強し、実施しています。

⁴ 試合以外では、選手の自主的運営が山東サッカー部の伝統なので、トップダウンとは表現しないでいきます。ですが、山東サッカーOB会 HP 酒田南戦の写真コメントにて、「やかましきということにかけてはかなりのカリスマ性を持つ監督」と表現されてしまっているだけに、選手の自主性を重んじるチームという表現は許されるものの、選手の自主性を重んじる監督とは自称しづらい。ゆえに、ボトムアップ

遠方ながら、清野 OB 会長、後藤報道局長がいつもの通り、応援・取材にいらっしやる。保護者の方の数もいつも通りたくさんいらっしやっております、庄内地区の対戦相手と比べても、明らかに多い。心強い応援を背に、酒田南戦キックオフ。

試合が始まると、山東が攻め込む展開。地区総体の東海戦と比べると、やはり断然山東がボールを支配する時間が長い。「さあ、先制点は誰だ」などとベンチで余裕かましていて、酒南のカウンター一閃。山東の CDF の対応の悪さに付け込まれ、シュートまで持ち込まれる。「あっ、やられた！」とベンチで観念しましたが、**われらが守護神 GK ケッツンが右手でギリギリ触り、CK に逃げることに成功。試合序盤でケッツンのビッグセーブが出ました！！** 所用で帯同しなかった GK コーチ齋藤さんに見せたかったプレーが出る。その序盤の危機を脱した山東は、その後、終始ペースを握る。手厚く攻める形から、先制、そして追加点を入れる。クリロン・カツミ・コウタの中盤がセカンドボールをしっかりと拾い、こぼれたボールも DF が難なく対処し、守備が安定。波状攻撃を仕掛けるも、なぜか 3 点目が入らない。**フィニッシュの不正確さが目立つ前半。**

後半も山東ペース。試合後お聞きしましたが、酒南は故障が相次ぎ、苦しい布陣とのこと。ボール扱いの上手い選手はいるものの、攻めが細いため、山東の守備が安定して見える。一二度、ボランチに入れたところでボール奪われ、ショートカウンターを浴びる。結果的に事無きを得るものの、Y2B で酒南を 6 対 1 で破った鶴南だったら失点していたのではないかと、と思われ、まだまだだなどと思わせられる（鶴南は県総体一回戦の相手）。しかし、それ以外は（奪われ方が悪くカウンターに発展したシーン以外は）、後半の守備はそこそこ安定。しかし、**攻撃はムンタリの胸トラップ⇒ボレーシュート⇒ゴールというビューティフルシュートが炸裂**し、3 点目を上げた以外は得点できず。ゴール前に迫るものの、**フィニッシュだけでなく、ラストパス・ラストトラップ・ポジショニングの正確性を欠く後半。**拙攻という言葉がピッタリ。**途中出場したジュンティーことジュンヤの「俺がいることも忘れるなシュート」**が繰り返された記憶が残る位で、あとは**タイチ、チョマヌキ、（山東に隔年で現れるという）ユータロー（3 年）、ジュンティーら、普段出場時間の短い選手に経験を積ませることができたのが、数少ない収穫。**あっ、志村顧問から試合後「うまいじゃないか」とのお褒めの言葉を引き出した**チョマヌキのクルクル回転コマドリフスル**もありました。「**いぶし銀**」**ユータロー（who？）のパスカットからの攻め上がり**もありましたね～。印象的プレーということで言うと、CDF タツルの攻め上がりからのドリブル突破もありました。しかし、まだまだフィジカルに頼ったドリブルなため、後藤報道局長が期待する所の「全部抜いてシュート」というシーンは今回も作れず⁶。**結局、3 対 0 で勝利。**雨中クレーの試合をしっかりとものにすることに成功。ただし、反省点は多かった。

今週末も Y2B があります。六魂祭に背を向けるようですが、Y2B の聖地山形明正 G で試合が行われます。応援よろしくお祈りします。

5 月 25 日（日）Y2B 第 4 節 山形明正戦 16:00 @ 山形明正 G

プ+トップダウン=アップダウンと表現しておきます。ちなみに、こんなところで何なんです、保護者激励会の時に草壁保護者会長だったかが「**サッカーは子供を大人に、大人を紳士に変える**」という**メキシコ五輪日本代表名コーチ、クラマー氏の有名な言葉**を紹介しましたが、あの言葉を聞いた時に、「マズイ」と冷や汗が出ます。**選手たちに「あの言葉は間違ってる、なぜならサッカーしてても紳士になってない人がいる、しかもすぐ近くに」と思わせていないかと・・・。**あんなにうるさくしてても、自分では紳士のつもりですけどね～（自分で言うな）。

⁵ ネットを揺らすも結局オフサイド、というもったいないシーンがありました。

⁶ しかし、最終的にそういうことができる選手になってほしいものだ。